

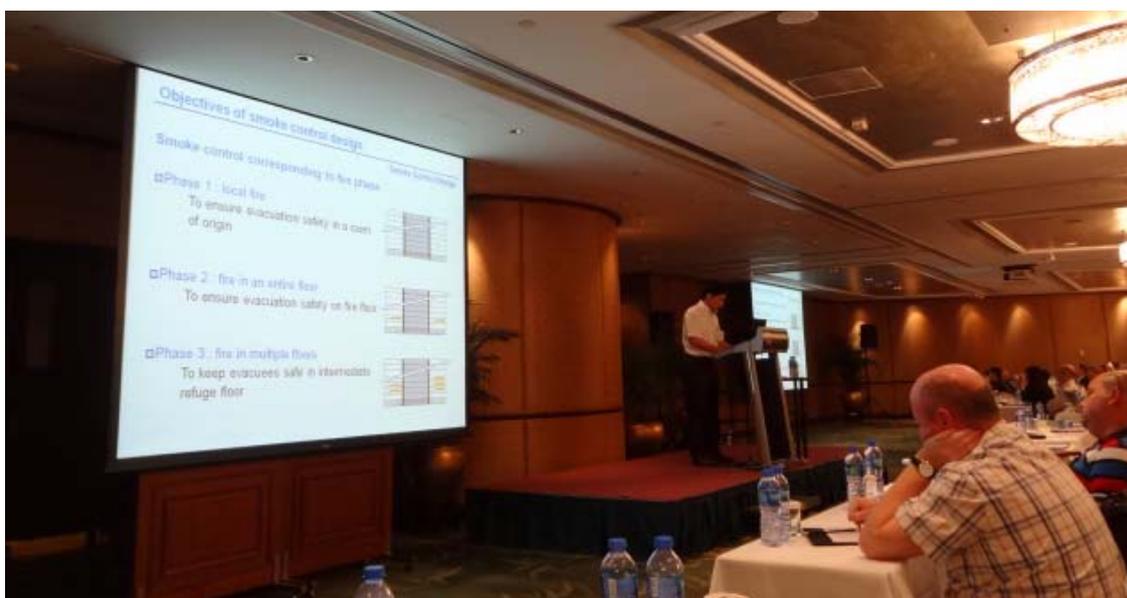
■第9回性能設計に関する国際シンポ 香港

6月20日から22日まで、SFPE主催の第9回性能設計と火災安全設計法に関する国際会議が開かれ、当協会として応募したケーススタディの発表を行ってきました。

今年のケーススタディのテーマは500mの高さの超高層の防火設計で、日本の他に香港、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、フィンランド、スウェーデン、米国が参加しました。今回のスタディでは、エレベータ避難、全館避難、中間避難階などがキーワードとして議論されました。毎回感じるのですが、他国の検討チームには建物の設計のできる人の参画がなく、コンセプトの議論や、部分技術の紹介にとどまっているものが多いのに対して日本は設計者がかわり、建物の設計としての考え方がよくまとまっていることです。日本の計画は中間避難階を中心に展開したものです。これらの内容はいずれ防火研修会として会員にご報告する予定です。

他に、日本からは長谷見先生以下の病院の避難に関する論文が報告されました。

次回は、2年後に南太平洋地区で開催される予定です。



■アジア地区交流会報告 香港

性能設計のシンポジウムに引き続き、6月23日にアジア地区のSFPE支部間の交流会が開催されました。参加国は、香港、韓国、台湾、インドネシア、シンガポール、日本で、SFPEのボードメンバーも数名参加されました。また、支部間交流の参考にしたいということで、スウェーデン、ポーランド、アイスランドからも参加がありました。午前中は、各国から、支部の状況や活動報告がされました。討論では、SFPEの本部から、こうした支部間交流活動をより活性化したいという意図が示されて、本部としてどのような支援が必要かという点を中心に議論が交わされました。アジアにおける支部間活動は他の支部には例がなく、本部としてはこれを他の地域に拡大していきたいと考えているようです。

とても辛い四川料理の昼食に引き続き、午後は、3題の講演がありました。初めはSFPE

の本部から、資格認定制度について現状と今後の方向性について講演がありました。資格制度の立ち上げを検討している日本にとっては、参考になる講演でした。2番目は日本の福井理事長より、東京スカイツリーの防災設計の紹介、最後に香港の消防資格制度の紹介がありました。

次回は来年インドネシアで開催される予定です。

